

人間ドックをご利用の皆様へ

当人間ドック宿泊コースでは、2021年6月1日より、睡眠時無呼吸症候群（SAS）の簡易検査を導入しました。SASは『Sleep Apnea Syndrome』の略です、SASは睡眠中、呼吸が止まった状態を繰り返す病気です。

適切な睡眠がとれないことで日中強い眠気を感じたり、生活習慣病を招いたり、悪化させたりする恐れがあります。健康維持のため、早期発見、早期治療が大切です。

【睡眠時無呼吸症候群とは】

睡眠中に無呼吸または低呼吸を繰り返す疾患。その結果、十分な睡眠がとれず、日中の傾眠や集中力の欠如など様々な症状を引き起こします。医学的には、10秒以上の呼吸が停止する状態を無呼吸といいます。酸素飽和度が3%低下する状態です。その無呼吸が睡眠中、1時間あたり5回以上発生するとSASと診断されます。

未検査・未治療の潜在患者は約20人に1人の割合と言われています。この病気の問題は、睡眠中の無呼吸が日中の活動に様々な影響を及ぼす事です。

成人SASでは高血圧、脳卒中、心筋梗塞などを引き起こす危険性が約3~4倍高くなり、特に、無呼吸低呼吸指数（AHI）30以上の重症例では心血管系疾患発症の危険性が約5倍にもなると言われています。

以下のような症状はありませんか？

- いびきがひどい
- 起床時に頭痛がする
- 睡眠中に呼吸が止まる
- 起床時に口の中が乾く
- 夜中に苦しくて目が覚める
- 起床時に疲れを感じる
- 夜中に何度もトイレに起きる
- 昼間に強い眠気や怠さに襲われる
- 寝汗をよくかく
- 集中力や記憶力が低下している
- 憂うつな気分がつづいている
- 居眠りで交通事故を起こしかけた

入院しての人間ドックだからできる検査です。この機会にぜひご利用くださいませ。

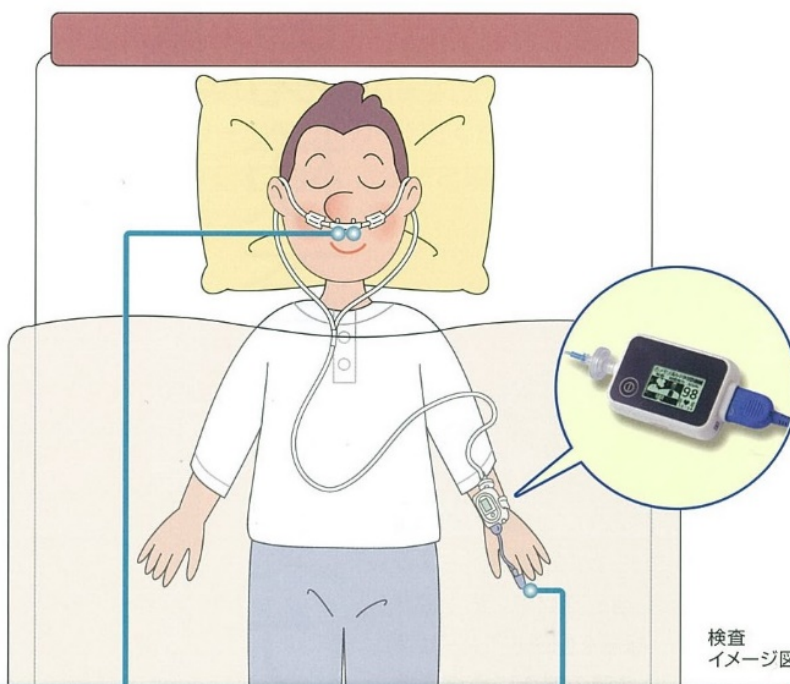
国立国際医療研究センター病院
人間ドックセンター

簡易検査について説明します。

どのような検査ですか？

この検査は、主に睡眠時無呼吸症候群(SAS)を簡易的に判断するための検査です。

手と顔にセンサーをつけて、眠っている間の呼吸と血液中の酸素(濃度)の状況を調べます。
少しわずらわしいと感じるかもしれませんが、痛みを伴う検査ではありません。
安心して検査をしてください。



検査
イメージ図

気流センサー

口鼻からの気流を測定し、無呼吸や呼吸が弱くなった状態(低呼吸)が無いかを調べます。1時間あたりの無呼吸や低呼吸の数(無呼吸低呼吸指数:AHI)を算出します。SASの重症度を診断する上で重要な指標です。

動脈血酸素飽和度(SpO₂)

血液中の酸素濃度の目安をパーセントで表示します。呼吸換気が悪くなると、酸素濃度が下がり、体に悪影響を与えます。換気の指標となる重要な測定項目です。

診断

医師が呼吸状態と血液中の酸素飽和度(SpO₂)の変化を総合的に評価し、SASの疑いがあるかどうかの判断を行います。SASの疑いがある場合、PSG検査(*)を行うことがあります。

*PSG検査

PSG検査とは、眠っている間の睡眠と呼吸状態を調べる検査です。睡眠中の検査の為、入院の必要がありますが、睡眠時無呼吸症候群(SAS)の診断をする上でとても大切な検査です。

